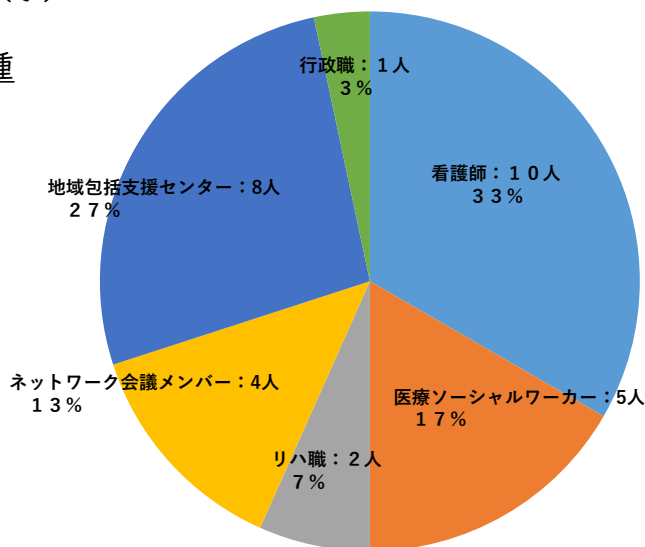


令和6年度 医療従事者向け権利擁護研修会 アンケート集計結果

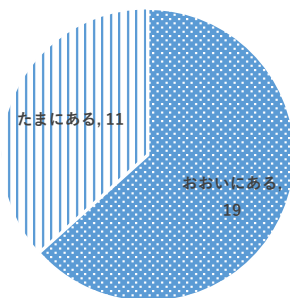
令和7年2月26日（水）18：00-19：30

Q1 参加者の職種



Q2 普段の業務の中で権利擁護が必要な方と接する機会について

接する機会



全体の割合	おおいにある 63%	たまにある 37%	ほとんどない
看護師の割合	おおいにある 50%	たまにある 50%	ほとんどない
医療ソーシャルワーカーの割合	おおいにある 40%	たまにある 60%	ほとんどない
リハ職の割合	おおいにある 50%	たまにある 50%	ほとんどない
地域連携ネットワーク会議委員の割合	おおいにある 50%	たまにある 50%	ほとんどない
地域包括支援センターの割合	おおいにある 100%	たまにある	ほとんどない
行政職の割合	おおいにある 100%	たまにある	ほとんどない

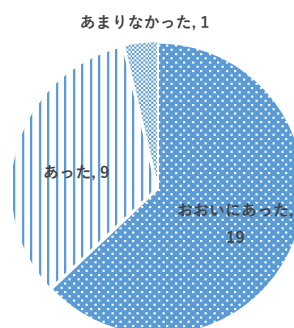
Q2 普段の業務の中で権利擁護が必要な方と接する機会について（内容）

- ・入退院支援看護師、多職種の考えをまとめ退院につなげる
- ・支援できる親類や友人がいない人の生活のサポート
- ・病気の快復状況で自宅退院か施設入所か家族も含め本人と決めてご意見を聴き取り、尊重された支援になっているか、感じる時がある
- ・医療者、家族だけで物語がすすむような場面などが
- ・治療の選択の場面
- ・生活できない、お金の管理できない、財産管理
- ・退院支援時
- ・金銭についての相談、対応があり関係機関と情報共有し解決につなげる
- ・自分の意見が表出できない（疾患により）
- ・小児科のリハビリ
- ・施設による意思決定のはく奪、意思決定やプランの歪曲
- ・身寄りがなく認知機能が低下していると診断された方。自身の意向を伝えることが難しい患者さま、ご家族
- ・身寄りがないための保証人の依頼
- ・身寄りがないのに、自分が動けなくなった時のことなどを考えてこなかった人の対応（事例と同じような）
- ・1人暮らしの高齢者のところへ訪問しており、死生観を伺うことがある
- ・判断能力低下があるが、生活に支障が出てきて何かしらの支援が必要と思われる方
- ・意思決定が難しい方への支援
- ・高齢者及びその家族からの相談
- ・身寄りがない方（後見人がついている）への対応（後見人とのやりとり、生保担当とのやりとり）、キーパーソンが遠縁もしくは不仲の場合の対応
- ・独居、身寄りなし⇒入院や入所、住みかえ、判断力低下等、虐待ケース、成年後見の相談

Q3 研修受講にあたり期待すること （自由記載）

- ・意思決定支援の難しさ
- ・他職種との関わりを持った研修を今後も期待します
- ・権利擁護支援への理解（を深める）
- ・北上市の成年後見制度の利用状況や課題などの情報
- ・ACPについてスタッフへ周知してもらうために看護師向けに研修があれば参加したい
- ・今後も継続して当研修を続けてほしい
- ・意思決定支援について×2
- ・リハ職なので相談や連携の業務や違った視点での意見を聞いてみたい
- ・意思決定「支援」とは何のことか知りたい
- ・ケースの経験により同じような研修を受けていても自分の中に落とし込めないことがある。今後も同様のテーマで研修を続けてほしい
- ・意思決定支援について実例をもとに知る
- ・他職種との連携、相互理解
- ・適切な時間でとてもおもしろく大変勉強になりました。ACPやBSCなどに関する話もききたいです

Q3 期待した成果について



Q3 研修会に参加して今後取り組んでみたいことはありますか（自由記載）

- ・意思決定には正解がない/キーパーソンは常に本人/ひとりで決めないを基本にする
- ・身寄りがない人が医療や介護を当たり前に受けられるために各機関が取り組むことの共有の実践
- ・まず、本人さんへの尊重した聞取りがきちんとできたか振り返りました。地域へつなぎ、本人の「自宅へ帰りたい」想いへ寄り添って支援していきたいと改めて感じました。
- ・訴えをきき意思決定支援につなげる
- ・本人をおさなりにしない。本人を中心とした意思決定の関わりを行いたいと改めて思いました。
- ・院内研修の参考にしたい
- ・患者本人の意思をまず確認することを忘れず業務にあたりたい
- ・ちょうど身寄りのない方の支援を考えていたので研修の内容を意識しながら本人と関わっていききたいと思います。
- ・普段から意思決定は大切にしていますが、それ以上に本人の希望を読み取り感じながら、日々の支援にあたっていきたいと思います。
- ・その人について考える時、誰の意思で物事を決めようとしているのか、その人には決める力があると考えて支援を組み立てていくこと
- ・重い障がいがあり、意思疎通が難しい方にも多く関わります。本人の意向を確認する、問いかけることを忘れずにあきらめずにいたいと思います。
- ・当事者本人の立場、考え思いをくみ取り、支援者へ周知できるようになればと思います。
- ・あきらめずに関わり続けること、チームとして関わっていくこと
- ・チームで対応していく力も身につけたいです。
- ・権利擁護への意識を強く持ち、今後の入院退院支援に取り組んでいきたい
- ・「わたしのきぼうノート」の活用
- ・リフレクション

Q4 研修会の感想や疑問、ご意見、今後の研修で希望することなどをお聞かせください。（自由記載）

- ・適切な時間で面白く大変勉強になりました。ACP、B S Cなどに関する話もききたいです。
- ・すてきな研修会ありがとうございました。
- ・他の先生の権利擁護の視点も聞いてみたいです。
- ・グループワークあるのが良いと思います。
- ・ありがとうございます。またお聞きしたいです。
- ・グループワークでいろいろな意見が聞けてとても参考になりました。
- ・みなさんとグループワークを通して意思決定支援のあり方を考えることができてよかった。「本人視点」について時々振り返り実践していきたいです。
- ・チームで考えていくことの大切さを再認識できた。
- ・重い話ですが軽妙な語り口で楽しく聞くことができなかつ勉強になりました。また聞きたいと思いました
- ・職種の違うもの同士が意見交換をできる場を作っていただきありがとうございます。今後も参加していきたいと思えます。自分の考え方が偏らないように。
- ・とてもわかりやすい研修でした。専門職としてだけでなく自分自身だったらどう考えるかなどいろいろな視点から学ぶことができました。ありがとうございました。
- ・関係機関との連携強化、横のつながり
- ・権利擁護について深く考えてもいない考えられない自分に気づくことができました。また、新しい視点を持つことができました。ありがとうございました。
- ・とても有意義でわかりやすかったです。元気をもらえました。ありがとうございます。
- ・「本人」の意思という部分について検討することで意思決定への理解を深めることができた。医療福祉分野における権利の考え方について学ぶことにつながった。

- ・日頃のケース対応の中でたくさん悩んでますが、今日のお話を聞いてとてもすきっとしました。ありがとうございました。
- ・鈴木さんのお話はいつも気づきを頂き自分の実践を振り返る良い機会になっています。ありがとうございました
- ・今後もこのような研修会がありましたら参加させていただきたいです。よろしくお願いします。
- ・事例検討で様々な職種の方の意見を聞くことができ、今後の参考にさせて頂く機会となりました。
- ・遅くなり短時間しか聴けないのが残念でした。
- ・支援を振り返りながら問いを持ち市民と向き合いたい。